

フィールドワーク・デザインビルドと各種コラボレーションを取り入れた教育活動の実践

正会員 畔 柳 昭 雄 君

最近の学生気質は、やや積極性に欠け、自らの意見を述べ議論することが少ないという現状に立ち、現場における実物の空間体験や実物からの寸法取りなどの実践が、学生の建築的好奇心を旺盛にするとの認識から、本応募業績の教育活動が行われた。

本業績の意義は、身近な存在でありながら、扱われることが少なかった海の家を題材にしたフィールドワークを行い、それをベースに企画立案から調査・設計・施工に至る建築のプロセスを実施する教育プログラムを実践してきたことにある。さらに、「参加・体験・思考・継続」することを通して授業科目の補完につなげ、知見を広げる工夫により探究心の向上を生み、職種に対する認識を深めるという学生自身への効果が見られた。これは、本活動の教育的効果であり、波及効果として海の家再生や伝統的技術の伝承などにつながっている。

この成果を挙げた教育上の創意工夫は、段階的に進展した教育プログラムにある。試行段階の時期では、授業の実験計画や設計製図で海の家を取り上げたことから始まり、卒業研究へと進展し、学生の関心が高まった。それを受け、次の段階として全国の海の家を踏査し観察する悉皆調査へと発展した。これが、地域性や風土性、類似性や特異性を見いだすことや仮設建築の学習へつながることになった。4年生と3年生の混成チームでの調査は、経験の伝承ともなり、これも教育効果のひとつとして現れたものと考えられる。そのことが、第3段階の海の家の実際設計・施工のデザインビルドへ展開した。竹やアルミの海の家建築、我が国初の海の家復元等の建設が実践された。これは企業や地域等との協働としてできるものであり、建築の実践の場として教育的に有意義であり、教育と実学のコラボレーションを果たしたと評価される。学生にとって、空間構成や寸法決定などの課題に対する解決方法を理解する格好の場であったと推察される。省力化、強度計算や施工管理等の業務に触れることになり、材料とのふれあいも経験できる場となった。

これらの体験的教育を通じて、図面化作業でのCADによる表現技術およびプレゼンテーションに対する表現力の向上などの付随的効果も得ることができ、直接的な効果とともに、間接的な幅広い教育としての効果が現れたと評価される。

本教育活動を通じた成果は、海を家の調査が雑誌で特集され、出版にも至り、「学ぶ場としての海の家」としても紹介されるなど、社会への浸透も見られた。地元材料である竹材の利用や地域とのコラボレーションを行うことで地域と関わり、社会的な貢献も見られた。

よって、ここに日本建築学会教育賞（教育貢献）を贈るものである。